

拜読 浄土真宗のみ教え

『拝読 浄土真宗のみ教え』について

刊行にこめられた思い

親鸞聖人が顕かにされた、阿弥陀如来のご本願の救いである浄土真宗は、親鸞聖人のご往生の後も七百五十年の長きにわたり、私たちの人生のより処として大切に受け継がれてまいりました。

親鸞聖人のみ教えが伝えられる上で、『御文章』や『領解文』が非常に大きな役割を果たしてきたことはよく知られています。『御文章』や『領解文』には、平易な言葉が用いられ、当時の人たちに真宗教義の要が領解されるよう示されました。「御文章拝読」「領解出言」といった形式を通してそれらを口に出言し、耳に聴聞することによって、み教えの理解と

その法に出あえたよろこびは大いに深められてきました。『御文章』『領解文』は、浄土真宗においてなにもにも代え難い大切なものであることはいままでもありません。

しかし、時代の変化とともにことばは変わります。『御文章』『領解文』も現代の私たちにはその意味が理解しにくくなってきた面があることは否めません。そのため、『御文章』『領解文』の精神を受け継ぎ、現代のことばで表現され、み教えに出あえたよろこびを深めていくことのできる文章が求められてきました。このたび、そのような求めに応じて「浄土真宗の救いのよろこび」「親鸞聖人のことば」がつくられ、これらを阿弥陀如来の尊前で拝読・拝聴していただけるように『拝読 浄土真宗のみ教え』を作成いたしました。

「親鸞聖人のことば」

「親鸞聖人のことば」は、浄土真宗のみ教えの要を親鸞聖人のことばをもとに、親しみやすく表現した文章です。

「浄土真宗の生活信条」や「私たちのちかい」とともに、ご法座のご縁などで、全十六章のうち一章ずつ拝読し、み教えについての理解と味わいを深めていただければと存じます。

「ご門主のことば」

「ご門主のことば」は、勝如ご門主、即如ご門主、専如ご門主が、浄土真宗の教義の肝要を簡潔にわかりやすく示されたご消息とご親教のご文章です。

「浄土真宗の教章」と「念仏者の生き方」は、繰り返し拝読することで、浄土真宗の基本的な教えと念仏者としての生き方がしっかりと身につけてくるでしょう。

「浄土真宗の生活信条」「私たちのちかい」は、ご家庭や寺院における法座などの仏事場で、また「私たちのちかい」は特に若い方やこれまで真宗のみ教えにご縁のうすかった方などにも、さまざまな場面でご唱和していただきたく存じます。

「折々のことば」

「折々のことば」は、「お正月」「お彼岸」「お盆」「報恩講」という、年中の仏縁となる行事に際し、その由来と意味に触れつつ、親鸞聖人、善導大師、蓮如上人のことばに依ってみ教えの味わいが深められるように示された文章です。

行事にあわせて頁を開き、味わいを深めていただければと存じます。

目次

『拝読 浄土真宗のみ教え』について	一
親鸞聖人のことば	一
人生そのものの問い	二
凡 夫	二
煩悩	四
眞実の教え	六
釈尊と経典	六
限りなき光と寿の仏	八
阿弥陀如来	八
他力本願	一〇
本願	一〇
如来のよび声	一二
名号	一二
聞くことは信心なり	一四
聞即信	一四
今ここでの救い	一六
信の一念	一六
愚者のよろこび	一八
二種深信	一八
阿弥陀仏の薬	二〇
触光柔軟	二〇
利益	二二
報恩の念仏	二二
浄土への人生	二四
証果	二四
自在の救い	二六
還相	二六
光の浄土	二八
浄土の本質	二八
美しき西方浄土	三〇
西方浄土	三〇
かならず再び会う	三二
俱会一処	三二
ご門主のことば	三五
浄土真宗の教章（私の歩む道）	三六
浄土真宗の生活信条	三八
念仏者の生き方	四〇
「私たちのちかい」についての親教	四四
折々のことば	四七
お正月	四八
お彼岸	五〇
お盆	五二
報恩講	五四
拝読について	五六
出典について	五八
『拝読 浄土真宗のみ教え』改訂にあたって	六三

親鸞聖人のことば

人生そのものの問い

日々の暮らしのなかで、人間関係に疲れた時、自分や家族が大きな病気になった時、身近な方が亡くなった時、「人生そのものの問い」が起こる。「いったい何のために生きているのか」「死んだらどうなるのか」。

この問いには、人間の知識は答えを示せず、積み上げてきた経験も役には立たない。

目の前に人生の深い闇が口を開け、不安のなかでたじろぐ時、阿弥陀如来の願いが聞こえてくる。

親鸞聖人は仰せになる。

弥陀の誓願は無明長夜のおほきなるともしびなり

「必ずあなたを救いとる」という如来の本願は、煩惱の闇に惑う人生の大いなる灯火となる。この灯火をたよりとする時、「何のために生きているのか」「死んだらどうなるのか」、この問いに確かな答えが与えられる。